

第六回 基地周辺地区安全対策協議会議事録

日時：平成20年5月2日(金)14:00～15:30

場所：横須賀市厚生会館 第1・2研修室

司会：鈴木基地対策課長

それでは定刻になりましたのでただ今から、第6回基地周辺地区安全対策協議会を開会いたします。私は、本協議会の事務局であります企画調整部基地対策課長の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

本日の協議会の出席者は過半数に達しておりますので、本協議会設置要綱第4条第2項の規定により、本日の会議は成立していることを報告申し上げます。

開会にあたり、本協議会の委員長であります杉本副市長からご挨拶を申し上げます。

委員長：杉本副市長

皆様におかれましては、大変お忙しい中、本協議会に出席いただきまして本当にありがとうございます。ありがとうございますという反面、また本協議会をこのような形で開催しなければならなくなったことは、まことに残念な限りでございます。

一昨年、の殺人事件以来、本協議会におきまして安全対策について議論を重ね、その結果、米海軍合同の防犯パトロールや、またスーパー防犯灯の設置等の対策を行ってまいりまして、周辺地区の住民の方々からは、治安が良くなったという声もいただき、一定の成果を収めていたと思っていたところでございます。

ところがさる3月、米海軍横須賀基地の脱走兵によるタクシー運転手殺人事件が発生いたしました。

本市といたしましては、ただちに米軍、そして国に対して、厳重に抗議をいたしまして、より具体的な再発防止策を早急にとるよう強く申し入れを行ってきたところでございます。

また4月7日には、県知事と共に、高村外務大臣並びに石破防衛大臣と直接面談をいたしまして、再発防止策について強く申し入れを行ってきたところでございます。

その結果、4月30日に、在日米軍司令官ケリー少将から市長に対しまして、具体的な再発防止策の報告がございました。

そこで、本日は協議会の皆様にその再発防止策についての報告をさせていただき、今後の対応について協議していただくため、急遽本協議会を開催させていただいたところでございます。

また、本日は米海軍横須賀基地司令官ウィード大佐に、大変お忙しい中、協議会にご出席いただきまして、本当にありがとうございます。

今日は司令官が見えておりますので、本人から直に再発防止策について説明をしていただき、今後の基地周辺の安全対策について、ご協議をしていただけたらと思っておりますの

で、よろしくお願い申し上げます。

以上をもって、開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、議事に入らせていただきたいと思います。

本日の議事でございますが、お手元に配付いたしました次第のとおりでございます。

協議事項として、平成 20 年 3 月 19 日に発生した殺人強盗事件について、協議をお願いするところでございます。

まず、協議に先立ちまして、事件の概要と経過について、事務局から説明していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局：鈴木基地対策課長

それでは、平成 20 年 3 月 19 日に汐入で発生しましたタクシー運転手殺人事件の経緯について、ご説明させていただきます。お手元の資料の、「平成 20 年 3 月 19 日に汐入で発生したタクシー運転手殺人事件の経緯について」をご覧ください。

まず 3 月 20 日木曜日、10 時 50 分、在日米海軍司令部より、廣川企画調整部長に汐入町で発生した、タクシー運転手殺人事件について、米海軍関係者が関与している疑いがある旨の連絡がございました。合わせて、市長・副市長に第一報を入れてございます。

12 時、廣川企画調整部長、越後市民安全担当部長が、米海軍横須賀基地司令部に赴き、事情の確認を行いました。

関与の疑いのある米兵については脱走兵の可能性があるとの説明を受け、今回の事件に関わらず、早急な調査とその米兵の発見に努めてほしい旨、要請しました。

3 月 21 日金曜日、10 時、学校教育課におきまして、全学校へ事件発生による安全配慮を依頼しております。

汐入小学校では、PTA防犯部、町内会、学校職員による登下校時の見守り強化を当面実施するとともに、全児童に対し注意を喚起するペーパーを配布いたしました。

同じく、こども育成部におきましては、保育園、幼稚園等、所管施設に対し安全配慮を依頼しました。

15 時、横須賀警察署から捜査関係事項照会書によるスーパー防犯灯画像提供の依頼がございましたので、市民安全課で直ちに回答（データ提供）いたしました。

3 月 22 日土曜日、3 時 51 分、米側から基地対策課職員に対して、行方不明となっている乗組員について、米側で脱走兵として身柄を確保した旨の連絡がございました。市長・副市長等関係者に連絡してございます。

13 時 30 分、米側が正式に 3 月 22 日午前 3 時 41 分に東京都港区五反田にて脱走兵を確保した旨報道発表してございます。

4 月 2 日水曜日、米側が外出規制、飲酒制限について正式に報道発表しております。

4 月 3 日木曜日、13 時、事件に関し謝罪のため J・トーマス・シーファー大使、ウィリアム・D・クラウダー中將、ジェームス・F・フロック少將、ジェームズ・D・ケリー少

将が市長を訪問しております。

同日 15 時 45 分、横須賀警察署において、犯人が逮捕されております。

それに先立ちまして、外務省が正式に報道発表いたしまして、強盗殺人容疑の米海軍兵の身柄引き渡しについて、日米合同委員会で日米両政府が合意した旨、発表しております。また米側も合わせまして、日米合同委員会で日米両政府は容疑者の身柄引き渡しに合意し、米海軍水兵の身柄が警察に引き渡された旨発表しております。

4 月 4 日金曜日、13 時 30 分、木村外務副大臣が政府の立場と今後の対応について説明に本市を来訪しました。

4 月 7 日月曜日、米軍が実施していた外出規制と飲酒規制を本日から解禁とする旨発表しております。なお、飲酒規制については、午前零時以降の飲酒は禁止とすることは未だ続いております。

4 月 11 日金曜日、10 時、外務省より報道発表がございました。在日米軍からの脱走兵の日本側への通報体制について発表されております。

4 月 24 日木曜日、横浜地検は、犯人を強盗殺人罪などで起訴しております。

4 月 30 日水曜日、10 時、在日米海軍司令官ケリー少将らが、再発防止策の説明のため本市を来訪しております。市長、市議会議長、市議会副議長らが報告を受けております。

以上で経緯の説明を終了させていただきます。

委員長：杉本副市長

ただいま事件の概要と経過の説明を受けました。先ほども挨拶の中で申し上げましたが、本日は横須賀基地司令官のウィード大佐に出席いただいておりますので、この事件に関連して今後の米海軍の再発防止について、説明をしていただきたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

ウィード米海軍横須賀基地司令官

具体的にお話させていただく前に、タクシー運転手の殺人事件に対して、まずはお詫びさせていただきたいと思ひます。地域の町内会長さんにお会いしたりして、お詫びをさせていただきましたが、この席をお借りしまして、このような重大で残酷な事件を起こしましたことに対して、改めて公にお詫びさせていただきます。一人の尊い日本人の方の命を奪い、また周辺住民の方々に多大な不安と恐怖を与えてしまったことを関係者として非常に恥ずかしくも思ひますし、怒りも感じております。

先ほども申し上げましたように、地域の町内会長さん方と、お会いさせていただきましたことをご迷惑をおかけしたことを謝罪させていただきました。

そして、事件直後、私の考えで、米兵のみではなく、基地の中で働く契約業者や連邦政府職員を含めて、これまでの素行調査を命じまして、万が一暴力的な面が見られた者には、注意、サポート、カウンセリング等をして、それでも改善が見られない場合には、米

国本土への送還も辞さないということをやっております。

私としては、日本であろうと、アメリカであろうと、この地域の安全に責任を持っている訳ですから、さらに憲兵隊の人数を増やしたりということをして、地域安全強化に努めてまいろうと思っております。

皆様の日頃からのご協力に改めて感謝申し上げますとともに、これから先は、在日司令部による防止策について説明をさせていただきたいと思っております。

皆さんお手元の資料を開いて、2ページ目を見ていただきたいと思います。

この資料にありますように、これまでの海軍がとってきた対応について、まとめてあります。一つの過去から得た教訓は、オールナイトで酒を飲むことは、色々な問題の原因になるということですので、2年位前から、朝2時から6時までは、外では酒が飲めない制限をしました。過去には、2時から6時の間には、結構酔っ払いを含めて、問題がありましたが、この対策を実施した後は急に減りました。やはり、効果的な対策です。

ご存知かどうか分かりませんがリバティーカードというプログラムをやっています。

簡単に説明すると、皆自分の軍のアメリカ政府の身分証明書をもっています。IDカードと言いますが、それに加えて、特に日本に来た若い水兵が、基地の外に言って遊ぶ前にもう一つのカードを持たせます。日本に来たばかりの若い人は、白い色。教育と訓練を受けたものは、数ヶ月たったところで、青いものに取り替えます。そういうリバティーカードプログラムも今までやっています。

そして、安全のため地域を循環するパトロールを実施しています。これは70名以上で、対象地域は、本町、汐入、横須賀中央、馬堀海岸、吉井等あちこちでやっています。

パトロールがどこに行くかは、皆様からの提案、要望があれば、柔軟に実施します。

もう一つ実施していることは、昼間にも士官と上級の下士官を横須賀の下町の辺りに派遣して、そこで商売をやっている人との関係を作ったり、何かあった時こちらに連絡して良いですよといった昼間の関係を今、作ろうとしています。

また私個人も、参謀長のランドクエスト中佐も、制服のまま、また私服を着て不定期に外に行って、ちゃんとパトロールをやっているかどうか、関係がうまくいっているかどうか、個人的にも度々チェックしています。

私は、飛行機を降りたらすぐに数時間でも、日本に勤務するためには、日本の習慣、文化、ルールがあることを、一番最初の段階から教育すべきだという考えです。

そういう意味で、そういうことが分る集中教育訓練を、日本に来る、隊員、家族、軍属、契約社員全員に、がんばって実施します。

例えば今年の12月に起きた事件がありましたが、その教訓を得て特に、女性に対する暴力行為を防ぐ、新しい教育をまた付け加えました。

私は暴力を絶対許さない考え方が、全員に広がるように、厳しくきちんとした教育・訓練を実施するつもりで、できるだけ自分でもこの教育・訓練の場に行って、直接隊員たちに接するつもりです。

基地そのものは、小さな街みたいなものですから、工場地帯とか、学校とか、店もあり、陸上だけでなく船乗り場もありますから、これから色々な形で、テレビ、ラジオ、ビデオ、DVDとか、人と人の直接の話とか色々なかたちで、できるだけ全てのところでこの教育ができるように、徹底しようとしています。

実は今年の8月に日本に住んだことの無い大勢の水兵と家族たちが横須賀に来ます。彼らにどうやって教育、訓練を実施するか考えているところです。

我々が考えたアイディアは、ジョージワシントンがアメリカの東海岸のノーフォークを出港する前に、教育を始めたほうが良いと考え、横須賀基地司令部からチームを組んで、日本からアメリカに行って、ジョージワシントンに乗って一緒に出港し、そこから日本の習慣や文化やルールなど、社会的な教育を始めることです。

私も横須賀基地司令官として、ノーフォークにも行ってきましたし、ケリー少将も行っていますので、できるだけ事前に、早めに教育・訓練が始められるよう一所懸命やっています。

実はジョージワシントン関係の家族たちも既に来ています。今23家族は日本に到着しています。これからも来ますけれど、来日した家族たちは既に教育を受けています。これから来る家族も来日したところで、きちんと教育します。今既に来ている23家族の部分的には基地の中の住宅に住んでいますが、残りの半分くらいは横須賀のあちこちに住んでいます。今のところの印象は日本は良いという印象が多いです。

また、9月になると、聞いていると思いますが、今度は原子力空母ですから整備や修理にあたって、日本人従業員では触れない部分がありますので、今度アメリカのワシントン州、グラマンタン州にある海軍造修所の技師たちも、ジョージワシントンの整備のために来ますので、特に9月に人数が増えます。この人達にも適切な教育・訓練を事前に実施します。

今まで実施していた措置はここにまとめてありますが、今度の事件が発生して、新たに取った措置を3ページからまとめてあります。

今度、特にうちの水兵が容疑者になって、逮捕されることが分った4月3日あたりからの措置は、記載してありますように、午前10時から午前6時の夜間外出の禁止、公共の場での飲酒を24時間禁止、3つ目は珍しいのですが、我々もできることとして基地の中のアルコールの販売も止めました。緊急時の緊迫した環境の中で、ケリー少将やウィード大佐、民事部長や他の関係者が話し合い、艦隊司令官とも話をしてこういう措置を決めました。

門限や、特にアルコール販売を禁止したことは、ある人達にはオーバーだと言われましたが、今は普通の時では無い、反省すべき時であるという注目を集めるためにも、我々はやらざるを得ないと思いました。

次のページをご覧ください。暴力を抑止するための、全体的な特別な訓練や反省する教育も実施しました。

事件のすぐ後にとったこの対策は、10日間に渡って全ての部隊の指導者、責任者たちに、

自分の部隊やグループを集めて暴力は許してはいけない、暴力的なものを見たら報告することとする会議をあっちこっち開催し、色々な教訓がでたので、もちろんジョージワシントンが8月に来ますので、その教育のためにも使います。

そして、部隊レベルで実施した教育・訓練の結果や教訓をまとめて、陸上部隊の場合は、中佐とか、大佐とかの方から、ケリー少将にまとめて報告しました。そして船の場合は艦隊司令官からクラウドー中將に報告しました。

そして、5ページには、今回の事件の問題点を大きく4つにまとめてあります。特に私が注目したいのは、2番と3番の事です。再発防止のためには、2番とか3番は、特に大事ではないかと、色々なところから判断が出ました。次のページで4つの問題点を左側に挙げて、それに対して右側にこれから我々がどういう対策をとるべきかをまとめてあります。

今回発生した事件の容疑者は脱走兵でした。この脱走兵情報をもっと早く日本側に伝えていけば、捕まったかもしれず、殺人事件もなかったかもしれないという反省でしたので、脱走兵の情報の提供をどうしたらいいか。アメリカ政府と日本政府の間には、在日米軍の色々なことを円滑に運営するために、合同委員会というものが存在していますので、脱走兵情報は迅速に日本側に伝えることが決まりましたので、その手続をこれから最終的に作ると思います。

米海軍の中の問題として、船と陸上部隊との間にも、脱走兵の情報交換がうまくいくよう改善しています。

暴力的行為の認識、考え方をどうやって良くしていくかですが、色々な暴力をコントロールするための既存の教育プログラムがありますが、もっと対暴力に集中したプログラムが必要であるという意見がありました。より効果的に、効率的に、集中した対暴力の訓練プログラムを作った方が良く、我々も判断しました。

そこで、まとめました暴力を防ぐための集中訓練は、英語の文字で CARE、この単語そのものも、物に重要性を置くとか、大事にするという意味がありますが、日本語で言えば、Cの Combined は総合、Aの Anti-Violence は反暴力、Rの Reflection は反省、Eの Education は教育ですから、総合した反暴力の反省教育です。この CARE プログラムについては、後で説明いたします。

もう一つは、過去の暴力の記録のチェックなど、総合的な改善ができるのではないかと、ということで、私の基地司令部の中には500人が勤めています、私の命令で500人の記録を全てチェックしました。

後、スクリーニングと言って、来る前、アメリカでも問題があるかどうかというチェックも行われていますので、その辺もあらためてよく見て改善するところがないかもやっています。

そういう色々なチェックから改善する部分を発見しましたので、それに対して組織の中で適切な対策を考えました。

もう一つは、実際に横須賀の下町辺りに、具体的な対策が取れるかという反省と教訓があります。

この3年間横須賀の下町辺りで、どこが問題あったのか、さらに記録を調べました。

この店は問題があった、この店は問題がなかったと、一つ一つ丁寧に記録を見て分析しました。

その3年間のデータを分析した結果、本町や下町辺りの4つの店に正式に警告を出しました。警告された店には基本的に、未成年に酒を売らないで、飲みすぎないで、騒ぎすぎないで、けんかにならないように、きちんとお客さんとうまくやってくださいというような警告をまず出しました。そしてその4つの店の辺りには、SPの数も増やして、監視しました。しかし、警告しても一つの店は、次の週末には5回位問題が発生しましたので、立ち入り禁止にします。

もうちょっと積極的に飲み屋とのやり取りとかやりますし、今度大きな船や船が多く戻るときもSPの数を増やすとか、パトロールする区域も大きくするとかの対策も考えています。

7ページのCAREプログラムですが、これから横須賀の海軍の中で実施するプログラムを簡単にまとめています。我々の狙いは、特に若者も含めて隊員に対して、暴力的なことを見たら、または経験したら、我慢や無視はしないで報告しなければならないという意識を強めることが一つのポイントです。もちろん横須賀に住んでいる私たちも、横須賀の一員であるという考え方を強めたいので、自分の故郷でも犯罪はだめなのと同じく、横須賀のことも大切ですから、こういうことを止めましょうということもやります。

次のページにはさらに詳しく説明しています。例えば今米海軍の中には、数年前から麻薬の使用を完全に海軍から無くすために、麻薬は1回も許さない、ワンストライクでもアウトという許容ゼロというポリシーを水兵も含めて海軍に入ると、そういう契約をします。一回麻薬で捕まえたらクビになることを覚悟して入ってきますから、許容ゼロという考え方を、今度麻薬だけでなく暴力行為にも同じ位置に置きたい。暴力は絶対許さない。迷惑行為から実際の暴力に発展するようなことを防ぐためにはルールが必要です。

生徒であっても、家族であっても、契約社員であっても、現役の隊員であっても、暴力的な行為や恐喝的な行為や迷惑行為はどんなことでも、無視してはだめである。ちゃんと適切な人に報告しなければならないことを義務付ける教育もこれから強化します。

後、深刻に受け止める意識が大事であるので、これから真剣に暴力について取り組んで欲しいと思います。

次のページは、ある意味私たちは、シナリオ訓練と呼んでいる例ですが、ステップ1から危険ならステップ3に発展します。

一つのテーマとしては、無視、逃げるのではなくて、対策がとることが大切なのです。

CAREプログラムのもう一つの要素は、相手が暴力的なことをするか事前に分る方法がないのか、100%ではないが、心理とか行動とを、チェックリストのようなものがありますの

で、それを活用して認識するための教育をがんばってやっています。また海軍の中にもカウンセリングという機能がありますので、早めに問題がありそうな人が見つかったら、カウンセリングに行かせて治そうとします。

今度のこの CARE プログラムの教育訓練は、一般軍事訓練で、1年常にやりす。定期的にやっている訓練ですけど、大きな課題として、これからずっと将来に実施します。

先ほど申し上げたシナリオ訓練を含めて、実際水兵たちが自分がこういう問題にかかわった時にどうしたらいいのかを話し合うようなことも含めて、引き続きこういう訓練を実施します。

例えば今度5月12日に基地の中で、今回は性的暴力、セクハラが性的暴行に発展するような問題を、劇みたいなもので行います。それを見て、色々なディスカッションをします。

ケリー少将の在日米海軍司令部も、この CARE プログラムの指導に当たっていますので、ホームページも含めて、この CARE プログラムに関する情報を、引き続き陸上部隊、艦隊に提供するつもりです。

最後のページですが、今まで米海軍は麻薬に対する教育プログラムと女性に対する暴力、暴行を防ぐプログラムをやってきました、良い結果をだしています。今まで暴力そのものを想定したものが無かったので、まさにこれからこの CARE プログラムは一所懸命やって、麻薬に対する教育プログラムと女性に対する暴力、暴行を防ぐプログラムと同じように、これから事件数が減るようにします。

最後に、これは海軍が横須賀で作ったものですが、在日米軍にも報告していますので、在日米軍の日本中にもこの CARE プログラムが使われるように、我々は希望しております。

以上ですが、何かご質問があればどうぞお願いします。

委員長：杉本副市长

どうもありがとうございました。ただいまウィード司令官から、具体的な再発防止について説明がございました。その中で、脱走兵に関する情報提供については、速やかに提供するというところで、未だ手続き的なことが残っておりますが、進展が図られた。またもう一つは、具体的に説明がございました CARE プログラム、これについてはチェックシートを利用して万が一暴力的面が見えたら、個人の問題として放置せずカウンセリング等を行いながら改善を図っていく、それでも駄目な場合は、確固たる手段を用いて対応していき、事前の兆候を見逃さないと、このような具体的な防止策が示されたところです。

これにつきまして、各委員から、お願いをしたいとか、またもう少し説明願いたいとかご意見などあれば、ご発言をお願いいたします。

上田委員

今、司令官の方から、安全対策についてご説明がございましたが、米軍として対策を考えていただいて、米軍として行動するだけでなく、隣接している地域の人と一緒に考えな

ければならない対策、両方でやっていかなければならない対策があると思います。

この教育プログラムについては、実は昨年も教育プログラムという形で取り組んでいたできました。今回のプログラムも見せていただいて感じたことは、確かに一所懸命やっていただいて、上司の方が、そういうことが起こらないように一所懸命やってくださっているのですが、なかなかそれがどこまで通じるのかなと感じます。ぜひこのプログラムの実施においては、一方的に上から言うだけでなく、聞いている人達の意見というか気持ちをその場において、十分に吸い上げてほしい。そうしないとこちらが理解してもらっていると思って話しても、相手が本当に理解できているのかという点が残るので、これからぜひ安全対策をやっていくうえで、効果は事件が起きないことですから、そのための努力をしていただければと思います。同時に、せっかく実施していただいているのであれば、是非我々にこの前と同じように、プログラムについて見せていただく機会を作っていただければと思います。もう一つ心配だったのは、5月12日に行うプログラム、これは実際に起きた事件などを入れながら、参加した人が一緒に考えようとする形だと思いましたが、参加した人が、自分だったらどうするかそれぞれ意見を言ってもらうのは良い事ですから、そういうような形でやってもらいたい。それから在日の各基地において、また日本だけでなく本国においても起こり得ることだと思しますので、やっていただきたい。

この問題は、我々も新聞を見てますと、毎日のように殺人事件が起きる日本になっていきますので、我々自身も自分たちの街で自分たちのパトロールなり、安全対策をしていこうと思しますので、ぜひ米軍としても御理解いただいて協力していただけたらと思います。以上です

委員長：杉本副市長

ありがとうございました。今の上田委員からの質問は、教育プログラムにつきまして昨年協議会のメンバーで視察をさせていただきまして、その視察の状況の中で、上からの一方的な指導だけでなく、指導を受けた者の意見等も聞いて、今後のプログラムの改善を図られたら良いのではないかと言うのが一点と、もう一点は、今説明を受けたプログラムの視察をお願いしたいということでした。最後の3点目はまとめの意見ですが、周辺の安全のための防犯パトロールを実施してございますが、これについても今後引き続きご協力をお願いしまして、合同でパトロールを継続していきたいという協力の要請でございました。

まず一点目の改善を図る体制をとってくれるのか、二点目は本協議会で視察をさせていただきたいということについて、お聞かせ下さい。

ウィード米海軍横須賀基地司令官

私が新人教育の初日の午後に、直接自分が行って、参加者と直に話し合いながら、彼らと名前を呼び合って話し合うということをやっていますので、それを見ていただければ一

番下まで行き届かないのではないかという疑問が解けるのではないかと思います。

二点目の実際に見たいというのは、毎週火曜日の午後、私のスケジュールが許す限りは、自分が行ってやっておりますので、自分がいけない時は副司令官が行くコーナーがございますので、それを見ていただくのがよろしいかと思います。

委員長：杉本副市長

今、一点目につきましては、ウィード司令官が直に個人個人の名前を呼び合って、お互いに教育の中で意志の疎通を図っていると、二点目の CARE プログラムの視察については、毎週火曜日の午後やっているということで、日程があれば視察についてはかまわないということです。

ここで、せっかく視察の話ができましたので、ぜひ協議会としても、これから日程を調整させていただいて、視察の計画を練りたいと思うのですが、いかがでしょうか。

日程は事務局で調整させていただいて、各位にご連絡する形で調整させていただきますので、よろしくお願いします。

では、その他にご発言がございましたらどうぞ。

越川委員

隊員対策についての訓練並びに教育は良く分ったのですが、一点、これから入ってくるジョージワシントンの関係者、いわゆる派遣社員や機械の修理を担当する人間に対する教育方法が今ひとつ見えてこない。基本的には隊員、隊員家族に対する教育訓練は良く分っていますが、それ以外の他からくる人間に対する教育についても、こういったプログラムに入れてやってほしいのが希望です。

ウィード米海軍横須賀基地司令官

越川委員の心配は、私自身の心配でもありまして、実際に既にジョージワシントン関係の業者の教育を基地司令部の人間を講師として送り込んで、始めておりますが、それだけではなく、実際に彼らが来た時、契約業者並びに軍属とか業者とか短期に出張で来る人間が日本に来た場合は、72時間以内に CARE プログラムの再教育を受けることになっています。

実際に深刻な犯罪を見てみますと、犯罪を起こすのは若い兵隊たちが多いという観点からは、メンテナンス関係で本国から臨時で送られてくる人達というのは、十分に歳を取っておりますし、家族を残して単身赴任できているという点から、若い兵隊よりは心配の種にならないのではと思っておりますが、もちろん彼らに対しても、こういった教育はちゃんと実施するようにしたいと思います。

委員長：杉本副市長

ありがとうございました。その他にご意見などございますか。

島田委員

今、色々と教育プログラムのお話をお聞きしまして、これを十分やっていただいたら、こういうトラブルはないと思うのですが、日本での生活文化を理解する教育プログラムがありますが、若い兵隊が日本に来て、基地の中だけで抑圧的な教育を受けられるということに対し、やはりストレスも溜まるのではのではないかと思います。日本側からしても、日本を知ってもらうために、概括的に特に文化、例えば鎌倉の観光など、この間たまたま基地司令官の送別会に伺ったのですが、彼ら大変日本に興味を持っていて、一年半くらいの期間に98回も鎌倉のお寺を回ったということでした。できれば横須賀の古い町だとか、特に美術館もできましたし、できればそういう案内をして、お酒を飲んで騒ぐだけのストレス発散だけでなく、もっと日本のことを知ってもらうチャンスを作っていく、防衛省も単に施設を提供するだけでなく、言い換えれば日本の観光の一助になるような、日本に興味を持ってもらうこと、米国に帰って、日本の良さを伝えてもらう意味でも、何か国際文化交流センターのような形も先行き考えて、お互いにコミュニケーションが取れるようにすることが必要なのだと思います。

ウィード米海軍横須賀基地司令官

すばらしいお考えをいただき、どうもありがとうございます。それについて、現在こちらも行おうとしていることについてお話させていただきます。

まず、新人教育の一環で地域についてというコースがございまして、実際に鎌倉のようなところに連れて行って、日本の文化に実際に触れてもらうこともしています。

後はこちらのリクリエーションプログラムとしては、日本中の観光地に行けるようなツアーを組んでおりますし、地域を紹介することについて協力を行っております。

島田さんのお話を伺っていて、若い兵隊はドブ板にしか行ったことがない、横須賀の他の所を知らないのかなと考えるに至りました。確かに皆さんご承知のように、横須賀はドブ板だけでなくたくさんすばらしいところがあるということですね。

ちょっとお伺いしたいのですが、若い兵隊が来た時には、バーだけに興味を持つのではなく、実際に横須賀市内を歩く観光というのをするのが良いと思いますか。そして、このレストランはおいしいとか案内すると良いと思いますか。

島田委員

ぜひそうしたいですね。そういった機会に接触することで、横須賀市はこれから英語教育を盛んにやっていこうとしていくようですが、なかなか直に英語に接していないとスピーチがなかなかうまくいかないのも、もっと地元の大学のサークルのような形の接触する会を作っていただいて、友達になるような感じにさせていただくと、日本の色々なことを知っていただける。前回の協議会の時申し上げたのですが、冗談交じりに住宅街などに将校

や上級の兵隊さんが横須賀市内にお住まいになっていまして、ぜひ町内会に入ってもらいたいと申し上げたのですが、できるだけ接触する機会があるとアメリカのことも分るだろうと思います。

ウィード米海軍横須賀基地司令官

そういうご提案も良い考えだと思って覚えていますし、なんとか実現に向けてやっていきたいなと思っています。

ニーマイヤ政務補佐官

基地の中の、歴史ツアーをやっていますが、これは日本人が基地の中を見たいということで、非常に人気があります。だから外国人が横須賀を見るために、基地の外の歴史ツアーも行っても良いのではないかと思います。バス等を使い定期的にそういうことをやれば、横須賀は衣笠城という鎌倉時代の歴史もありますので、そういうものも見たほうが良いと思います。自分のホームタウンとを感じるには、横須賀は飲み屋だけでなく、歴史があることを知るの大切だと思います。

島田委員

来年の4月は衣笠山でお花見などいかがでしょう。

ニーマイヤ政務補佐官

歴史が分るように、横須賀の博物館に、もう少し英語のサインがほしい。漢字だけだと分らない。予算があればそういうところを改善していただければ、アメリカ人との良い関係の基になると思います。

ウィード米海軍横須賀基地司令官

今現在進行中の企画なのですが、バーだけでなくレストランに若者たちがどんどん恐れずに行くようにということで、市役所や商工会議所の方たちと会合を持ちまして、どうやったらアメリカ人が街に出てくるようになるかということをやっております。

あと、大学生のボランティアにつきましても、とても素晴らしいと思います。

島田委員

今お話にありましたレストランについてですが、アメリカの方はカードでの支払い多いのですが、日本のちょっとした食べ物のお店では、カードは扱っていない店があるようで、その辺の習慣の違いがあるようです。

ウィード米海軍横須賀基地司令官

これからは新人教育では、現金で払うよう強調しておきます。

委員長：杉本副市長

ご意見ありがとうございました。その他にご意見ございますでしょうか。

なければ、まとめをいたしたいと思います。

今日の大きな内容といたしまして、CARE プログラム等具体策を示された中で、我々協議会としては、是非その CARE プログラムの訓練の実施状況を視察したいと言うことで、これにつきましては、後日調整をさせていただいて、実施してまいりたいと思っております。

色々発展的なご意見もございまして、またそれに対する司令官のお話の中でも、これからも横須賀の歴史、文化についても今後とも積極的に交流を図ってまいりたいというようにお話もございましたので、是非そのようなものを通じて、米軍基地と横須賀市民が一体となってより良いまちづくりができるような形の中で、発展的な交流ができるように、各委員の皆様におかれましては、ご協力をいただくと共に、またご意見等があれば事務局の方にお寄せいただきまして、事務局を通じて米軍基地と意見交換をさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局からその他ありますでしょうか。

司会：鈴木基地対策課長

教育プログラムの視察につきましては、米軍側と日程調整して皆様にご連絡させていただきましますので、よろしくお願いいたします。

委員長：杉本副市長

今、事務局からございましたように、今後日程を調整させていただいて、視察を実現していきたいと思っておりますので、各位におかれましてはお忙しいとは思いますが、ぜひご参加のほどをよろしくお願いいたします。

それでは本日は、お忙しい中、長時間にわたってご議論させていただいてありがとうございました。また米軍からは司令官をはじめ、本当にありがとうございました。また各位におかれましてもこの協議会で、私としてはこの協議会が多く開催されないほうがベターと思っておりますので、こういう機会ができないような形で、街の治安について、努力してまいりたいと思っておりますので、皆様方のご協力をたまわりますようお願いいたしまして、本日の協議会を終了したいと思います。ありがとうございました。

司会：鈴木基地対策課長

それではこれもちまして、協議会を終了させていただきます。本日はご苦勞様でした。